

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

平成20年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦）の子実用作付面積は26万5,400 haで、前年産に比べて1,400ha（1％）増加した。（表2-1、図2-1）

イ 収穫量

平成20年産の4麦の収穫量は109万8,000 tで、前年産に比べて7,000 t（1％）減少した。（表2-1、図2-1）

図2-1 4麦の作付面積及び収穫量の推移（全国）

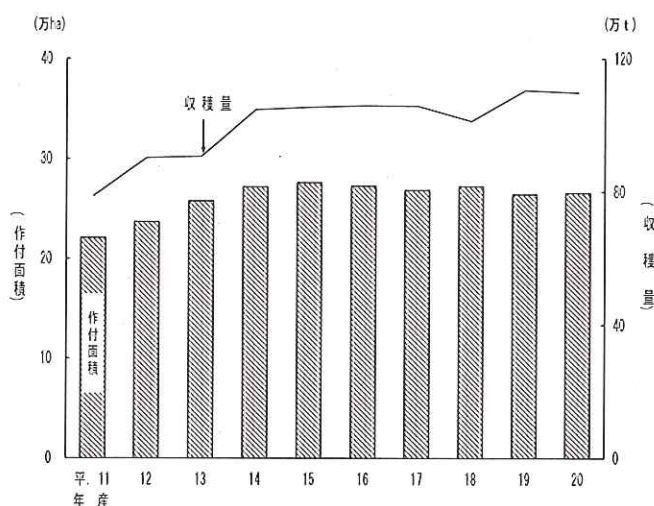


表2-1 平成20年産4麦の収穫量

区 分		作付面積	1 0 a 当 たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						(参 考) 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	
					作付面積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量				
					対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
		百ha	kg	百t	百ha	%	%		百t	%	%	
全 国	4 麦 計	2 654	…	10 980	14	101	…	△	70	99	…	
	小 麦	2 088	422	8 812	△	9	100	97	△	289	97	104
	二条大麦	354	410	1 451	9	103	110		169	113	119	
	六条大麦	169	331	560	12	108	100		39	107	107	
	裸 麦	44	370	161	3	108	104		18	113	119	
北 海 道	4 麦 計	1 179	…	5 496	△	15	99	…	△	403	93	…
	小 麦	1 157	468	5 415	△	14	99	94	△	405	93	100
	二条大麦	22	370	81	△	1	95	108	2	102	104	
都 府 県	4 麦 計	1 475	…	5 490	29	102	…		344	107	…	
	小 麦	931	365	3 397	5	101	103		116	104	112	
	二条大麦	332	413	1 371	10	103	110		168	114	120	
	六条大麦	169	331	560	12	108	100		39	107	107	
	裸 麦	44	370	161	3	108	104		18	113	119	

注：1 この統計表は、子実用である。

2 「（参考）10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量（過去7か年のうち、最高、最低を除いた5か年の平均値）と当年産の10a当たり収量との対比である（以下の各統計表について同じ。）。

表 2-2 平成20年産 4 麦の収穫量（全国農業地域別）

全国農業地域	4 麦 計		小 麦				二 条 大 麦				六 条 大 麦				裸 麦			
	作 付	収 穫 量	作 付	10 a	収 穫 量	(参考)	作 付	10 a	収 穫 量	(参考)	作 付	10 a	収 穫 量	(参考)	作 付	10 a	収 穫 量	(参考)
	面 積		面 積	当 たり		10 a 当 たり	面 積	当 たり		10 a 当 たり	面 積	当 たり		10 a 当 たり	面 積	当 たり		10 a 当 たり
	百ha	百t	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%
全 国	2 654	10 980	2 088	422	8 812	104	354	410	1 451	119	169	331	560	107	44	370	161	119
北 海 道	1 179	5 496	1 157	468	5 415	100	22	370	81	101	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	1 475	5 490	931	365	3 397	112	332	413	1 371	120	169	331	560	107	41	370	161	119
東 北	96	228	82	225	184	110	x	x	x	-	14	314	41	109	-	-	-	-
北 陸	90	300	x	151	x	103	0	200	0	183	90	331	299	114	-	-	-	-
関東・東山	408	1 454	230	347	798	91	123	383	471	106	54	333	180	95	x	407	x	114
東 海	150	479	145	322	467	112	0	46	0	27	4	295	12	113	x	x	x	x
近 畿	100	292	90	287	259	110	2	262	4	97	x	316	x	107	x	296	x	102
中 国	42	156	14	312	43	108	26	411	106	115	1	238	2	119	x	275	x	123
四 国	41	160	18	381	70	110	0	381	1	118	-	-	-	-	23	396	89	116
九 州	518	2 421	351	449	1 575	123	181	435	788	131	x	x	x	x	16	349	57	126
沖 縄	0	0	0	126	0	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：この統計表は、子実用である。

(2) 解 説

ア 小麦

(ア) 作付面積

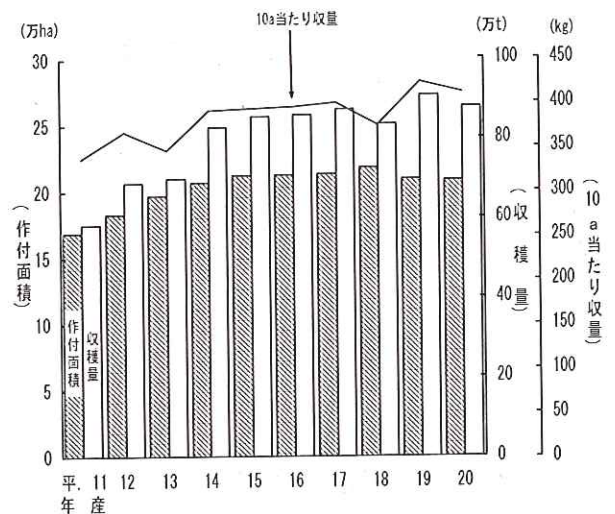
小麦の作付面積は20万8,800haで、前年産に比べて900ha減少した。

このうち、北海道は11万5,700haで豆類への転換があったため、前年産に比べて1,400ha（1%）減少した。

一方、都府県は9万3,100haで、九州において二条大麦や裸麦への転換により減少したものの、その他の地域において水稻等からの転換により増加があったため、前年産に比べて500ha（1%）増加した。

（表 2-2、図 2-2）

図 2-2 小麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10 a 当たり収量

全国平均の10 a 当たり収量は422kgで、前年産に比べて3%下回った。

なお、10 a 当たり平均収量対比は104%となった。（表 2-2、図 2-2）

a 北 海 道

10 a 当たり収量は468kgで、前年産に比べて6%下回った。

これは、6月下旬から7月上旬の少雨及び7月の日照不足の影響で登熟が抑制されたこと等による。（表 2-2、図 2-3）

b 都府県

10 a 当たり収量は365kgで、前年産に比べて3%上回った。

これは、佐賀県等においておおむね天候に恵まれたことから生育が良好であったためである。

(表2-2、図2-4)

(ウ) 収穫量

収穫量は88万1,200tで、前年産に比べて2万8,900t(3%)減少した。

このうち、北海道の収穫量は54万1,500tで、作付面積が前年産に比べて減少したことに加えて、10 a 当たり収量が前年産を下回ったため、前年産に比べて4万500t(7%)減少した。

一方、都府県の収穫量は33万9,700tで、作付面積が前年産に比べて増加したことに加えて、10 a 当たり収量が前年産を上回ったため、前年産に比べて1万1,600t(4%)増加した。

(表2-2、図2-2)

図2-3 平成20年産麦作期間の半旬別
気象経過(帯広)

小麦 地点:帯広

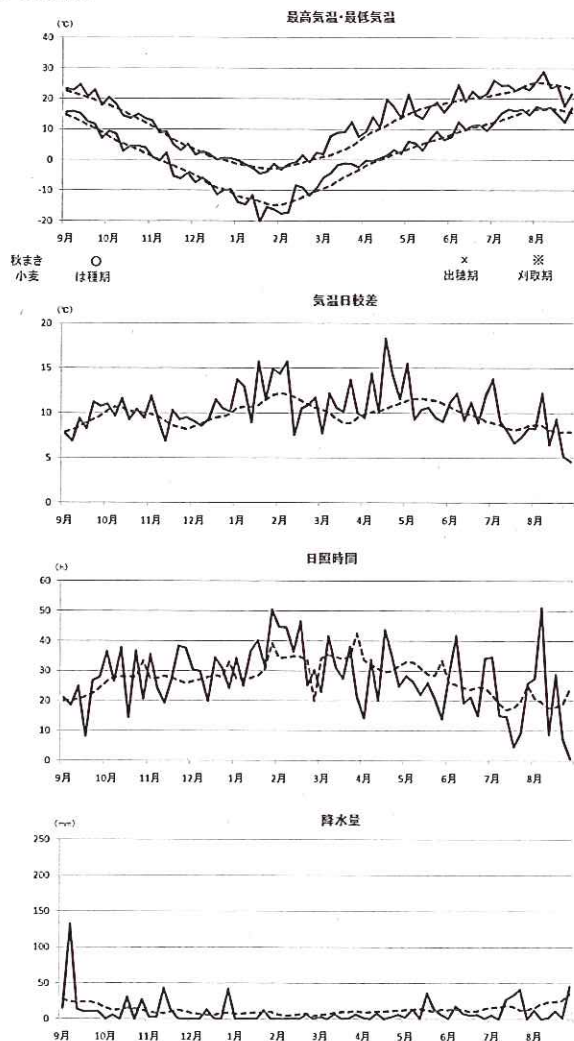
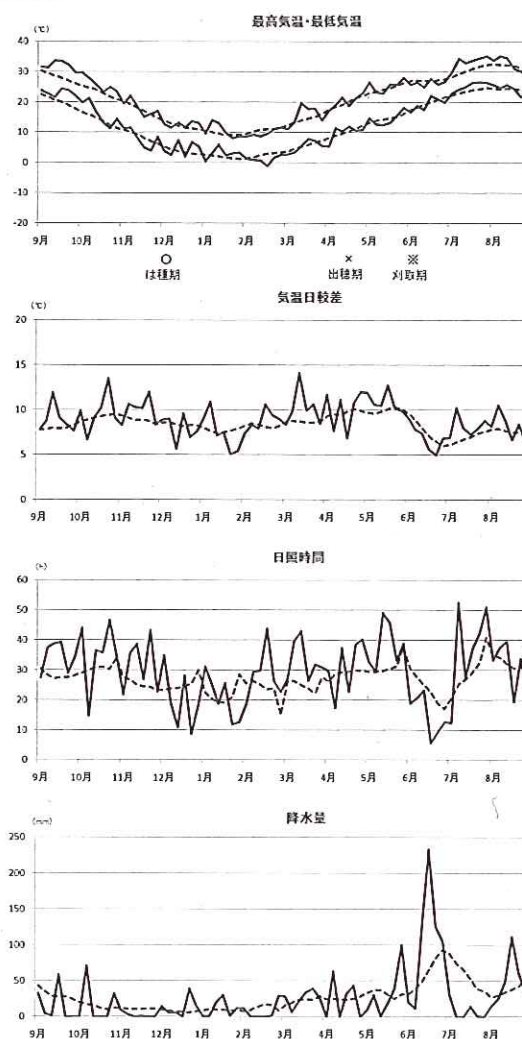


図2-4 平成20年産麦作期間の半旬別
気象経過(佐賀)

小麦 地点:佐賀



イ 二条大麦

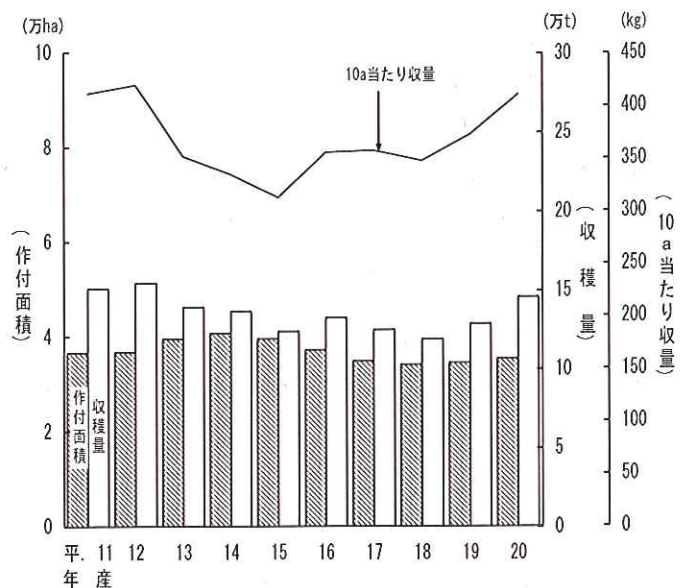
(ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万5,400haで、前年産に比べて900ha（3%）増加した。

これは、九州において焼酎用の需要が多く、小麦等からの転換があったためである。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は2,180haで前年産に比べて120ha（5%）減少した。都府県は3万3,200haで前年産に比べて1,000ha（3%）増加した。（表2-2、図2-5）

図2-5 二条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

全国平均の10a 当たり収量は410kgで、前年産に比べて10%上回った。

これは、佐賀県や栃木県等においておおむね天候に恵まれ生育が良好で登熟も順調であったためである。（表2-2、図2-5、2-6、2-7）

(ウ) 収穫量

収穫量は14万5,100tで、前年産に比べて1万6,900t（13%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したことに加えて、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。（表2-2、図2-5）

図2-6 平成20年産麦作期間の半旬別気象経過（宇都宮）

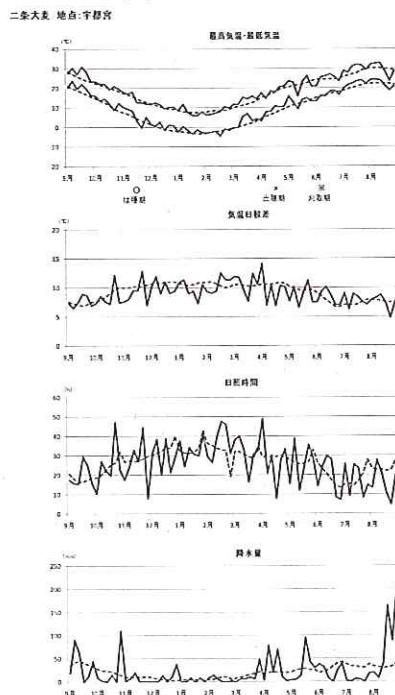
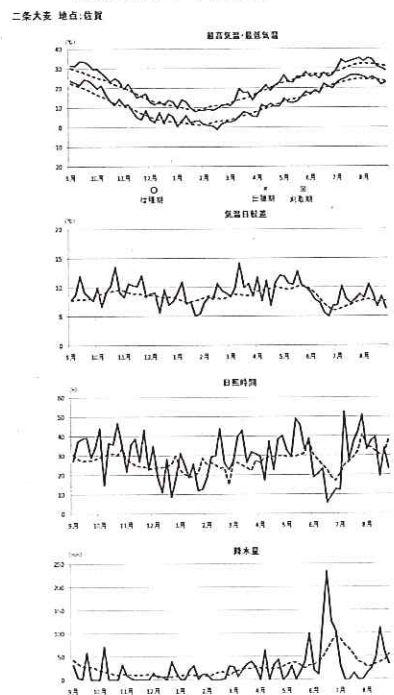


図2-7 平成20年産麦作期間の半旬別気象経過（佐賀）



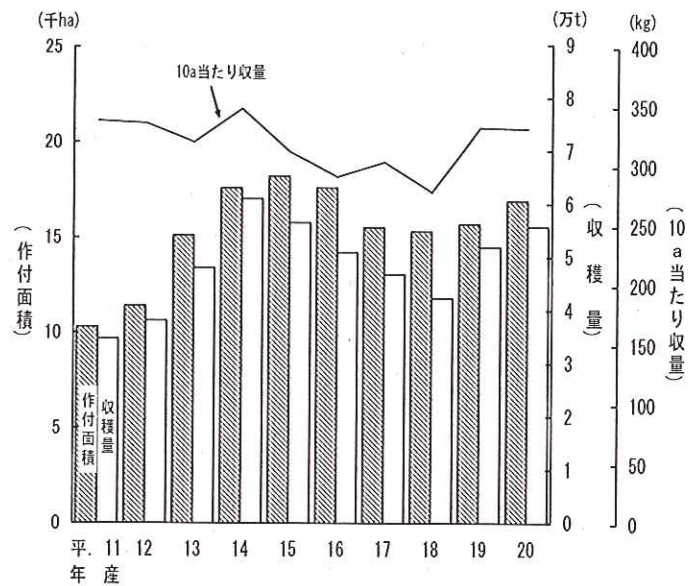
ウ 六条大麦

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万6,900haで、前年産に比べて1,200ha（8％）増加した。

これは、国産大麦の需要の増加から北陸において水稻等からの転換があったためである。（表2-2、図2-8）

図2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は331kgで、前年産並みであった。

これは、福井県で過去最高の10a 当たり収量であった前年産に比べて減少したもの、栃木県等でおおむね天候に恵まれ生育が良好で登熟も順調であり、前年産を上回ったことによる。

（表2-2、図2-8、2-9、2-10）

(ロ) 収穫量

収穫量は5万6,000tで、前年産に比べて3,900t（7％）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したためである。（表2-2、図2-8）

図2-9 平成20年産麦作期間の半旬別気象経過（宇都宮）

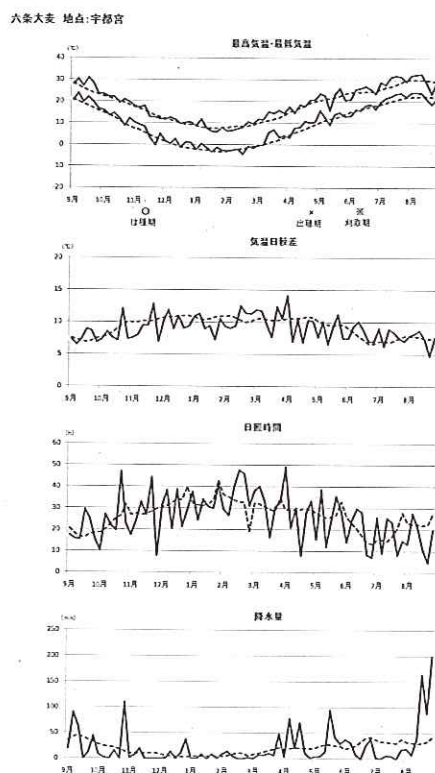
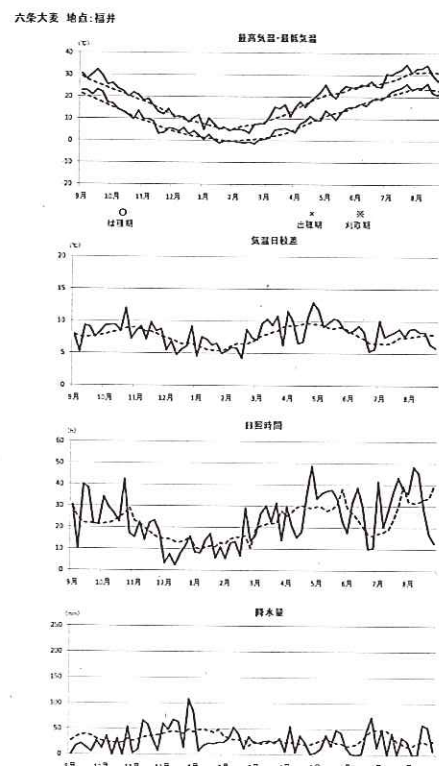


図2-10 平成20年産麦作期間の半旬別気象経過（福井）



エ 裸麦

(ア) 作付面積

裸麦の作付面積は4,350haで、前年産に比べて330ha（8%）増加した。

これは、大分県において小麦からの転換があったためである。（表2-2、図2-11）

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は370kgで、前年産に比べて4%上回った。

これは、愛媛県等でおおむね天候に恵まれたことから生育が良好で登熟も順調であったことによる。（表2-2、図2-11、2-12）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万6,100tで、前年産に比べて1,800t（13%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したことに加えて、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。（表2-2、図2-11）

図2-11 裸麦の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）

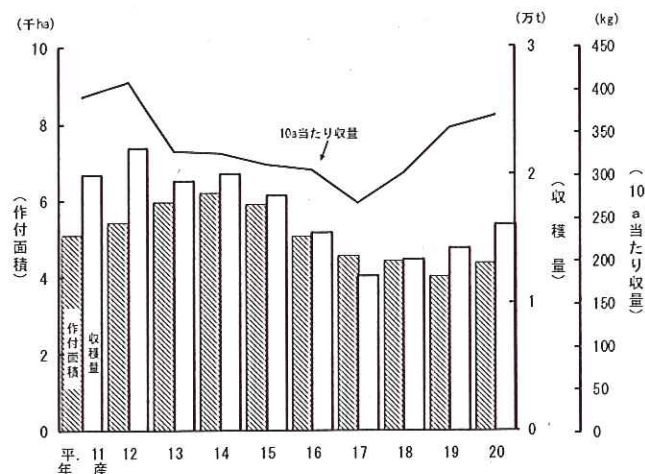
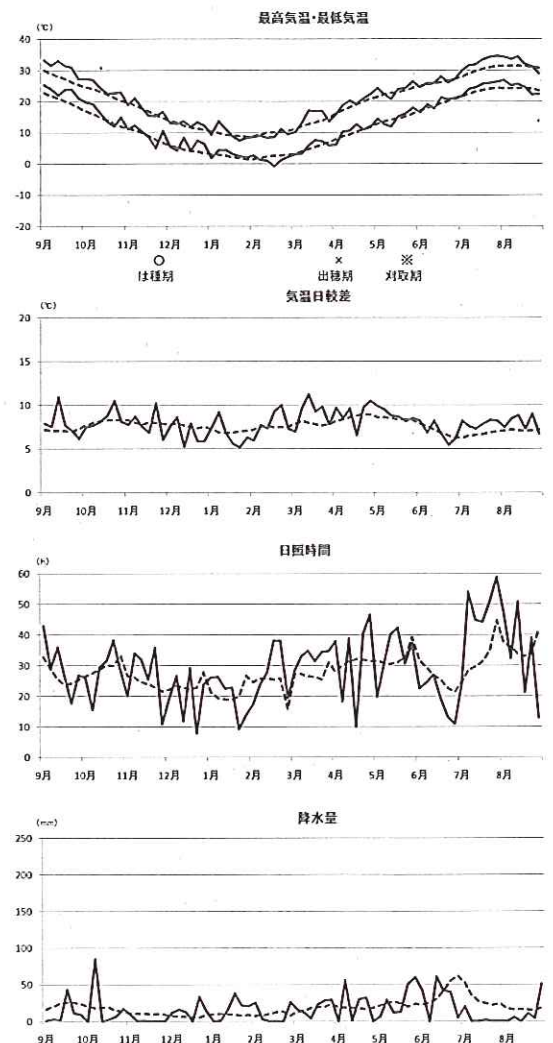


図2-12 平成20年産麦作期間の半旬別気象経過（松山）

裸麦 地点：松山



3 豆 類・そ ば

(1) 要 旨

平成20年産の豆類（乾燥子実）の全国の収穫量は、大豆が26万1,700 t で前年産に比べて3万5,000 t（15%）増加し、小豆が6万9,300 t で前年産に比べて3,700 t（6%）増加した。いんげんは2万4,500 t、らっかせいは1万9,400 t で、前年産に比べてそれぞれ2,600 t（12%）、600 t（3%）増加した。

なお、主産県における平成20年産そばの収穫量は2万3,200 t で、前年産に比べて3,100 t（12%）減少した。（表3）

表3 平成20年産豆類（乾燥子実）（全国）及びそばの収穫量（主産県）

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考) 10 a 当たり 平均収量 対 比
				作付面積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量			
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比		
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	
大 豆	147 100	178	261 700	8 800	106	109	35 000	115	109	
小 豆	32 100	216	69 300	△ 600	98	107	3 700	106	118	
い ん げ ん	10 900	225	24 500	500	105	107	2 600	112	107	
ら っ か せ い	8 070	240	19 400	△ 240	97	106	600	103	103	
そ ば	47 300	…	…	1 200	103	…	…	…	…	
うち主 産 県	39 800	58	23 200	1 400	104	85	△ 3 100	88	84	

注：1 小豆、いんげん及びらっかせいの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成20年産については主産県を対象に調査を実施した。

なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合計したものである。

2 そばの収穫量調査は、主産県調査であり、主産県の結果を積み上げた主産県値として集計し、全国値は推計していない。

(2) 解 説

ア 大豆（乾燥子実）

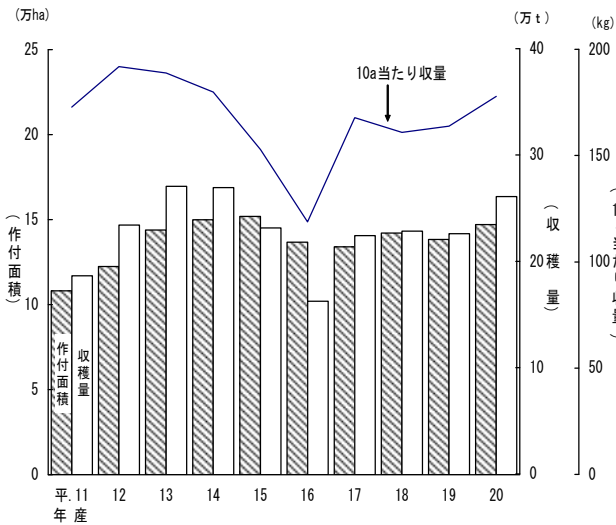
(ア) 作付面積

平成20年産大豆の作付面積は14万7,100 haで、前年産に比べて8,800ha（6%）増加した。

これは、中国及び四国で価格の低迷から他作物への転換等により減少したものの、東北及び九州で水稻からの転換により増加したためである。

（表3、図3-1）

図3-1 大豆の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は178kgで、前年産に比べて9%上回った。

これは、全国的なおおむね天候に恵まれ、生育が良く、登熟も順調であったためである。

(表3、図3-1)

(ウ) 収穫量

収穫量は26万1,700tで、前年産に比べて3万5,000t(15%)増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したことに加えて、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。(表3、図3-1)

イ 小豆(乾燥子実)

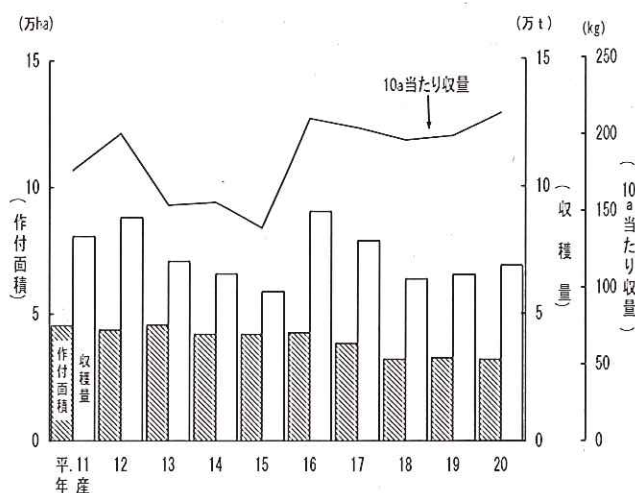
(ア) 作付面積

平成20年産小豆の作付面積は3万2,100haで、前年産に比べて600ha(2%)減少した。

これは、兵庫県において、生産者団体等による作付推進により約100ha増加したものの、全国の約7割を占める北海道において、価格の低迷により他作物等へ転換されたことから減少したためである。

(表3、図3-2)

図3-2 小豆の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移(全国)



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は216kgで、前年産に比べて7%上回った。

これは、北海道等で9月以降、おおむね天候に恵まれ、登熟が順調で粒の肥大が良好となったためである。(表3、図3-2)

(ウ) 収穫量

収穫量は6万9,300tで、前年産に比べて3,700t(6%)増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したものの、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。(表3、図3-2)

ウ いんげん（乾燥子実）

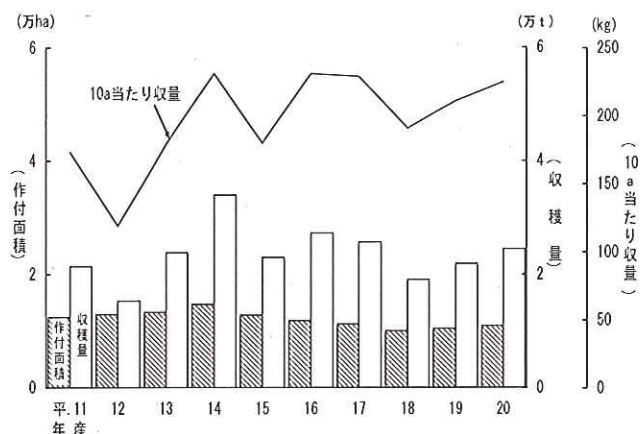
(ア) 作付面積

平成20年産いんげんの作付面積は1万900haで、前年産に比べて500ha（5%）増加した。

これは、全国の約9割を占める北海道において、生産者団体による作付推進により他作物等から転換されたことから増加したためである。

（表3、図3-3）

図3-3 いんげんの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は225kgで、前年産に比べて7%上回った。

これは、主産地である北海道で9月以降、おおむね天候に恵まれ、登熟が順調で粒の肥大が良好となったためである。（表3、図3-3）

(ウ) 収穫量

収穫量は2万4,500tで、前年産に比べて2,600t（12%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したことに加えて、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。（表3、図3-3）

エ らっかせい（乾燥子実）

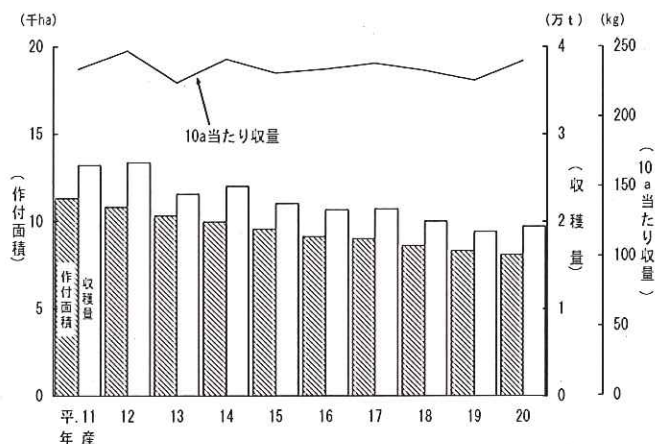
(ア) 作付面積

平成20年産らっかせいの作付面積は8,070haで、前年産に比べて240ha（3%）減少した。

これは、全国の約7割を占める千葉県において、生産者の高齢化等の労働力事情による減少があったためである。

（表3、図3-4）

図3-4 らっかせいの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は240kgで、前年産に比べて6%上回った。

これは、主産地である千葉県でおおむね天候に恵まれ生育が良好であったためである。（表3、図3-4）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万9,400 tで、前年に比べて600 t（3%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したものの、10 a 当たり収量が前年産を上回ったためである。（表3、図3－4）

オ そば

(ア) 作付面積（全国）

平成20年産そばの作付面積は4万7,300haで、前年産に比べて1,200ha（3%）増加した。

これは、東北及び北陸において水稻からの転換等により増加したためである。

このうち、主産県（計）の作付面積は3万9,800haで、前年産に比べて1,400ha（4%）増加した。（表3）

(イ) 10 a 当たり収量（主産県）

主産県における10 a 当たり収量は58kgで、前年産に比べて15%下回った。

これは、北海道で7月下旬から8月にかけての低温等の影響で受精不良となり着粒数が減少したことに加えて、茨城県等で8月下旬の大雨の影響で発芽不良となったこと等による。（表3）

(ウ) 収穫量（主産県）

主産県の収穫量は2万3,200 tで、前年産に比べて3,100 t（12%）減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したものの、10 a 当たり収量が前年産を下回ったためである。（表3）